

い

お盆を過ぎてもこの暑さ・・・

今年は例年以上に厳しい暑さが続いています。

地震、雷、大雨と自然災害も各地で猛威をふるっています。

長年自然を侵し続けた人間達への警告のように思います。

今回はうさおさんに投句頂きました。さっそく拝見しましょう。

十七文字の抒情詩

茫洋の杉葉に埋もる鉄路見し

生い茂った杉葉に埋もれた線路。情景の見える佳句です。

鉄路見し・・・と言ってしまう方が感動が伝わります。感嘆の「かな」で締めくくる方がより句がはっきりと見えてきますよ。

それと杉葉は春の季語になります。俳句は先取りと言われるように

過ぎてしまった季語はなるべく使わない方が良いでしょう。ただ・・・実際に

杉葉が生い茂っていたのしょうから、このままでもよいかな・・・と思いました。

＊茫洋の杉葉に埋もる鉄路かな

目を俯め灼けた鉄路にレンズ向け

このままでも灼けた鉄路の様子、それを写真に取ろうと

いろいろな角度でファインダーを覗く作者の様子が良く解ります。

もうひとひねりするとより良くなりますよ。

＊ファインダーに切り取る鉄路灼けるたる

手に熱き転轍機には藪枯らし

見たまを句にしていらっしゃるので様子が良くわかります。

ただ、枯らすというのは冬の季語になるので夏の季語を

持ってきて、炎天、炎気が良いのではと思います。

＊藪すべて萎ふ炎気の転轍機





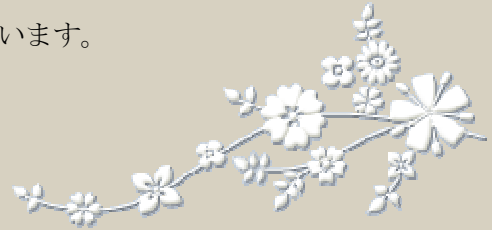
夕立の後に一涼めがね橋

佳い句ですね。めがね橋とされたところもとても良いです。
に→のとされる方がリズムが良くなると思いますよ。

* 夕立の後の一涼めがね橋

先人の遺物壊れる炎天下

先人の遺物・・・自然災害などで先人達の遺してくれたものが壊れていくのは
本当に残念な事ですね。季語がとても効いています。



灰白き女の素足魚めく

母の名の加はる名薄原爆忌

ゆうこ

母の初盆に加え、日舞の会、長唄の会とそれこそ目の回る夏でした。
今回はうさおさんが暑い夏を句にして下さいました。
どの句も写生句でとても良く出来ています。次回も楽しみにしています。

例年よりずいぶんと暑さも厳しく、今もって残暑も治まりそうにありません。
暦の上ではとっくに秋のはずなのに・・・秋の句がなかなか詠めません。
でも、あと一息乗り切れば、心地良い秋の風が吹いてくれる事でしょう。



ローションのとろり沁み込む夜の秋

銀漢や百の三味線演奏会

ゆうこ